

小平図書館友の会 会報 29 号



発行日：2012年11月13日

発行者：小平図書館友の会会長 剣持 香世

<http://www4.plala.or.jp/Nori/>

目次

こんなに楽しい！読書サークル・小平 1 / 第15回定期総会報告 2 / 10月講演会・
蛭田廣一さん「小平の歴史を拓く」概要 3 / インタビュー・事務局伊藤規子さんに
聞く 4~5 / 6月講演会・川本三郎さん「東京町歩き」拝聴記（島 正夫）6 /
文学散歩感想（山本菊雄、川上文子）7 / 学習会報告 障がい者サービス学習会（名取
公子）8 / YAを楽しむ会（重村ヒロミ）図書館について学ぶ会（加藤裕史）声に出して本
を読む会（雑崎亮平）9 / 図書館協議会報告（伊藤規子）Information 古本市 10

こんなに楽しい！ 読書サークル・小平



隔月に一度、第三日曜日の午後を開いています。最近まで学芸大図書館にお勤めの大森さんが司令塔です。驚くほどの博覧強記の人で、視野が広くあらゆるジャンルの本を把握されています。我々不勉強な生徒は課題本すら碌によまないで、勝手に別の新刊本の話を持ち出しても優しく対応してくださる、包容力抜群のリーダーです。

メンバーは現在のところ6~7名ですが、去る4月の例会で「和本のすすめ—江戸を読み解くために」中野三敏著が取り上げられた時には、特別参加の慶応大学（書誌学）の大沼清輝教授がわざわざ和綴じ本の現物を持参され、説明して下さるというハプニングもあって、その時の参加者は10人超でした。

9月に取り上げた本は川本三郎著「私の東京町歩き」でした。この本は6月に同氏を招いての講演会が極めて好評だったので、もう一度読み直してみようという趣旨でした。このようにこの会はその時々話題本や参加者の希望もとりあげて楽しく話し合っています。まさに読書サロンです。ぜひ一度覗いてください。きっと病み付きになることとぞんじます。（島 正夫）

次回は11月18日（日）午後2時～
場所は小平市中央図書館 館外奉仕室
福田和也 著 『病気と日本文学』
（図書館西側裏口よりお入りください）
どなたでも参加できます。当日会場へ

小平図書館友の会

第15回定期総会開催

10月14日(日)午後1時より中央図書館視聴覚室にて総会が行われました。出席者30人、委任状75通で総会成立。議案審議が進められました。議長は会員の園木久治さん。

審議に先立ち氏家会長が、この一年ほぼ計画通りの活動がおこなわれ、それぞれに充実した内容であったのは会員の協力によるものであるとの挨拶がありました。松原悦子中央図書館長からは、図書館の運営は行政の力だけでは成り立たず、市民の声や協力が大事であり、これからも利用しやすい図書館をめざしていきたいとのべられました。また古本市の収益による図書館への寄贈品に対しても感謝の言葉をいただきました。

議案はすべて拍手で承認されました。今年度友の会は満15周年を迎えます。周年行事の予算も増やしてより充実した活動が期待されます。また役員交代があり役員会は以下のメンバーで新たにスタートします。

- 会長 剣持 香世
- 副会長 内田 清子、藤原 紀子

- 事務局 伊藤 規子
- 会計 白井 由美
- 会報担当 入山 弘之、剣持 香世
- 会計監査 塚本 健男、風間 禎之助

《学習会代表》

- 声に出して本を読む会 雑崎 亮平
- YAを楽しむ会 重村 ヒロミ
- 図書館について学ぶ会 加藤 裕史
- 障がい者サービス学習会 名取 公子
- 読書サークル・小平 大森輝久

そのほか出席者からは、

感想…6月におこなわれた調布の武者小路実篤記念館への文学散歩に参加したがとても良かった。実篤公園内のひかり藻は後世に残したい自然だ。(山本)

質問…古本市の収益の一部を東日本大震災の被災図書館に送っているが、本そのものを送るルートはないのか？(本間)

答え…昨年と今年2回、日本図書館協会経由で被災図書館の支援に現金を送っている。まだ被災地が混乱していること、衛生面での手続き等の理由から本そのものを送ることはしていない。今後本を送れるようになった場合は情報を会員に送り協力を呼びかけることもありうる。(氏家・加藤)

要望…新仲町図書館の設計者である妹島和世さんにぜひ講演をお願いしたい。(島)

答え…役員会にて検討いたします。



新会長あいさつ

今年度は友の会設立15周年の年に当たります。15年の間にIT技術の進展により本を取り囲む世界も大きく変化してきました。さまざまな電子ツールによって文字を読むことができるようになり、「重い」「嵩張る」本は小さなチップの中へ入ってしまいました。

しかし秋の夜長の友とするにはやはり紙の本でなければという人はまだまだ多いはず。図書館に出向いてたくさんの本の中から選ぶ楽しみも捨てがたいし、芸術的ともいえる装丁の美しさもまたしかりです。私はそういった本好きな人々が集い、様々なイベントを通じて交流し、たくさんの楽しみが見つかる友の会であってほしいと思います。そして小平の図書館がもっと使いやすく、もっと身近になるよう知恵を出し合いたいと思います。新しい年度へ、さあご一緒に！

剣持 香世

蛭田廣一さん講演会 概要

「小平の歴史を拓く」
ひら

—市史編さんを担当して

10月14日(日)、第15回定期総会の講演会として、完成間近の小平市史編さん事業の責任者である企画政策部参事・蛭田廣一さんにお話を伺った。参加者は、友の会の会員のほか、一般の参加も40人ほどあり、みな熱心に聞き入った。



市史編さんは、平成20年度に始まり、26年度に完成することを目標として現在も作業が続けられている。本編3冊のほかに史料集や別冊など計19冊を発行する予定で、市のホームページには市史編さんこぼれ話21話が紹介されている。このように本事業は大部にわたる本格的なもので、素人ながら全国的にも価値の高いものなのだと想像できる。

講師の蛭田さんは、入庁以来ずっと図書館に勤務され、長年地域資料収集に力を注いでこられたこともあり、図書館資料が今回の市史編さんにたいへん役立ったということから話が始まった。これまで収集した資料があればこそ、5年という短期間にこれだけの成果が挙げられたというお話に、図書館友の会としては大いに納得した。

鈴木遺跡に見る旧石器時代、戦いの道となった鎌倉街道、そして玉川上水の開通から新田開発、当時の作物や暮らしの話など、はじめて聞く話も多々あって引き込まれた。

小平といえば「うどん」ということで、小麦粉の産地と思っていたが、うどんは、実はハレの日の食べ物であった。江戸時代、主には大麦、粟、

稗、芋などを食べていたとのこと。一方、畑で作っていた作物は、大麦、小麦、芋、荳胡麻、そば等々、これを換金して年貢として納めていた。流通経済が進んでいたことがわかる。また尾張藩の鷹場があったため野鳥やいのししをむやみに追い払えず、案山子を立てるのにも届けが必要で、何かと規制の多い農作業であった。

明治時代に入り、小平村から小平町、そして小平市へと発展していくわけだが、そもそも「小平」のいわれが、単に「小川村」の「小」ということではなく、明治17年(1884)に設置された「小川新田外六カ村戸長役場」の「小」と、平らな土地の「平」とが合わさって「小平」となったのではないかという資料に基づく推論などを聞いてなるほど、と思う。

交通の発達については、多摩湖鉄道の始まりの話などもなかなか興味深かった。多摩地域はお茶や生糸の生産が盛んで、それを東京に送る手段として玉川上水に舟を通していったこと、それが禁止され、馬車鉄道を経て鉄道が発展していったという。

鉄道が開発されれば人も集まってくるわけで、西武鉄道は、人を運ぶ路線となり、沿線に宅地開発が進んでいった。昭和初期、多摩湖鉄道開通当時のチラシが図書館に保存されており、一坪10円50銭だったことがわかるとの話には、「ほおっ」という声があちこちから挙がった。地域資料収集成果の面目躍如といったところ。

市史編さんの市民参加面として、図書館に係わっている情報ボランティアの協力が紹介された。また、職業能力開発総合大学校の学生・先生が、開拓時の小平を模型にするなど市民参加での小平市史研究も進んでいるとのことだった。

お話が終わって会場からの質疑を受けたが、なかなか専門的な質問が多く、市史に対する関心の高さに感嘆した。平成26年度には中高生から大人までを対象とした概要版も刊行されると聞く。ここ小平の地のはるかな歴史に思いを馳せ、タイムトリップしてみるのもよいかもかもしれない。

インタビュー

友の会事務局 伊藤規子さん

会員のだれもが知っている事務局の伊藤規子さん、友の会の屋台骨といっても過言ではありません。でも意外にその素顔は知られていない？その伊藤さんにお話をうかがいました。

**まずは簡単なプロフィールを。**

東京中野で生まれました。育ったのは杉並区の荻窪です。まだまだ田んぼの残るのどかなところでした。結婚後多摩地区二か所を経たあと小平にきました。今から32年前くらいです。家族は夫と一男一女、子育ての基盤は小平でした。

小川東小（現元気村）や二中にお世話になり、PTAにも関わりましたが書記などやはり裏方が多かったですね。

本、図書館とのかかわりはいつごろからですか？

小さい時から本は好きでした。小学校併設の図書館にはよく通い詰めました。SFものや科学系の本も好きで「私たちの宇宙」（日下実男／著、朝日新聞社 1957）という本は今でも持っています。中学高校ともに図書部です。ネクラだったのかなあ？ 父が揃えてくれた岩波少年文庫はかなり読みましたし、ヘッセに傾倒したこともあります。そのころから児童文学が好きで「床下の小人たち」（メアリー・ノートン 岩波書店）も愛読書でした。

やはり文学少女だったのですね。

それでは友の会に関わることになったきっかけを教えてください。

小平の文庫活動のなかに図書館問題学習会というのがあって、図書館に対しさまざまな提案をしたりしていましたが、そこでは子どもや学校図書に関しての問題を取り上げていました。図書館全体のことを考える会も欲しいということで学習会の数人のメンバーが友の会を立ち上げることとなりました。その時引き受けたのが事務局だったのです。

初代の本間浩会長が友の会を良い方向にリードして下さったのと、当時の中央図書館長の斉藤正男さんのアドバイスのお陰で次第に会員も増え、会も充実していきました。友の会を知ってもらおうと始めた古本市は回を重ね、今では友の会の中心的イベントとなっていますね。

友の会の現状をどのように評価していますか？

全国にはいろいろな形の図書館友の会があります。もっぱら提案・提言を行う「運動系」、図書館を補佐する「ボランティア系」などです。小平の場合は、ボランティアではなく寄贈品*1という形での支援になりますが、両者がバランスよくおこなわれていると思います。そしてプラス「楽しみのある友の会」です。古本市、文学散歩、講演会、学習会の中にも楽しいサークルがいくつかあります。

本と図書館に関わることであればいつでも会員がサークルを作れます。そのサークルが軌道に乗るように後押しするのも私たち役員の役目だと思っています。

*1 毎年古本市で得た収益金を図書館の希望に沿い物品として寄付している。

今の友の会に足りないものがあるとすればなんでしょう？

図書館利用者の声を図書館に届けるという点が少し弱いような気がします。

しかし「利用者懇談会」を開いても参加者は少ないですね。

そうなんです。小平市の図書館は他市に比べ蔵書数も館の数も充実していますので市民は概ね満足しているということなんでしょうね。

図書館と友の会、関係はいかがですか？

図書館とは良好な関係だと思っています。友の会の活動をよく理解していただいています。コツコツと実績を積み上げてきた結果でしょう、現状は理想の形に近いと思います。

未入会の方に友の会のPRを。

先ほども言いましたように、本と図書館に関することであれば何でも提案してください。サークルが増えていくこともいいことです。いつでもお手伝いします。

伊藤さんが編集し、毎月発行されている交流紙「らいつぶらりーふれんず・こだいら」。会員同士をつなぐのにとっても大きな役割を果たしていると思います。

会設立当時は年に2～3回の発行でしたが、会員から「役員会が見えない」との声を受け、役員会報告、会員の寄稿、学習会の紹介などをのせ毎月発行するようになりました。年会費をいただいている以上、情報を共有するのは大切なことから。毎月の発行になって会員の手配りが始まりました。郵送料の節約に大いに助かっています。

伊藤さんと言えばパソコンなど機械に強いイメージですが…。

交流紙の歴史は世の中のITの進歩の歴史と重なります(笑)。最初はwindows95から…。家族の助けを借りてなんとか乗り越えてきました。正式に習ったことはなく使い続けているうちに覚えたという感じです。それに公民館の印刷機も随分使いやすくなりましたね。

☆☆☆

どのようなジャンルの本が好きですか？

やはり児童文学が好きです。ローズマリ・サトクリフやダイアナ・ウィン・ジョーンズです。前者は歴史もの、後者はファンタジーものですね。

最近読んで面白かった本は？

「夏の庭—ザ・フレンズ」湯本 香樹実 新潮社
「日の名残」カズオ・イングロ 中央公論社
「インクジェット時代がきた！—液晶テレビも骨も作れる驚異の技術」

山口修一、山路達也 光文社

今までで一番好きな(感動した、おもしろかった)本の中から。

「ぶた にく」大西暢夫／写真・文 発行：幻冬舎エデュケーション 発売：幻冬舎

「ウルフ谷の兄弟」デーナ・ブルッキンズ／作 宮下嶺夫／訳 評論社

座右の銘、人生の指針、心に残る言葉などありますか？

心に残る言葉は…

「すぐれた子どもの文学は、『大きくなるって楽しいことだよ。生きてごらん、大丈夫』と背中を押してくれる本。そんな1冊に自分もなりたいし、皆さんにもなってほしい。」青山学院女子短期大学教授清水真砂子さんの最終講義での言葉。

日常のなかで大切にしていることはなんですか？

家族に優しく接する…かな？言うは易しですが。

若者やシニア世代に言いたいことはありますか？

若者には、なんでもやっごらん。シニアには、みんな頑張ってるね(笑)。

伊藤さんを知る人の中で、伊藤さんは冷静沈着いつでもどっしり構えているイメージですが、失敗談はありますか？

どっしりは体型から来るのでは??? 失敗談はたくさんありますよ。曜日や時間を間違えて出向いてしまうことはよくありますし…。私の欠点は見直しをしないということです。昔からテストなんかでも見直しをすればもう10点は上がっていたのにとことはしょっちゅうでした。皆さん私を信用せず間違いは直してくださいね。

☆☆☆

では一問一答…

自分を動物に例えたら？ ねずみ…かな？

好きな食べ物は？ お煎餅！

今一番やりたいことは？ こたつでお煎餅を食べながら児童書を読む！

お忙しい中ありがとうございました。

伊藤さんがねずみ？と聞き返したら、「ねずみの中にもいろいろあるから…」と笑っていらっやいました。さて皆さんのイメージでは何ねずみでしょうか？

(聞き手 剣持)

講演会「川本三郎の東京町歩き」拝聴記

上水南 島 正夫



さる6月9日午後、中央図書館視聴覚室に雨天にも拘わらず、開演20分前にはや満員札止めという超人気の講演会を拝聴できました。

川本さんは作家・翻訳者にとどまらず映画・文芸や世相万事に亘る評論など広範囲に活動されておられ、加えて今回のテーマの「散歩の達人」とあって熱心なファンが多数つめかけたと思われま

す。さて「散歩」という言葉が初めて日本の文芸に登場するのは、鴎外の「雁」であり、本郷に下宿する学生岡田の散歩が無縁坂の中程に住むお玉との出会いとなり、悲恋物語りが始まる。社会的に分析すると、戊辰戦争の勝者（山口県出身のエリート大学生）と敗者（旧幕臣の家から妾に売られた娘）が結ばれることのない愛が繰り広げられてゆきます。

同様に永井荷風も名古屋の出で薩長を毛嫌いして、文学の道を選び、なによりも「ぶらぶら歩き」と称して、独りで築地から玉ノ井界限を散歩して、風景・風俗と民衆を細かく観察しています。人嫌いといわれるほどに一人歩きを好んだことは日記「断腸亭日乗」に記されているとおります。

武蔵野に目を向けると、大岡昇平の「武蔵野夫人」が野川を舞台にして、国分寺の崖（ハケ）やお鷹の道など水の流に沿って話が展開してゆく。恋ヶ窪という地名が意味深長に使われていますね。

不思議な川といわれる残堀川を探検した経験談は、狭山池から始まる流れを



追って旧日産自動車村山工場に沿って歩き、玉川上水と交差する珍しい場所を教わり、玉川上水が残堀川の下をくぐり抜けるのは、サイフォンの原理が使われていることを知って嬉しくなり、あと数回に分けて多摩川に合流するところまで歩かれたとのこと

散歩は欧米文化とともに輸入され、日本に都市型社会が成立して初めて成り立つ習慣で、他人への無関心がなければとても「ブラブラ歩き」は不可能である。名もない一人で自由に気楽になれる環境が求められると。

歩くときは見えるものの裏側を知っているとより楽しい。たとえば堀切の電車の駅、荷風の描いた荒川の堤と映画「東京物語」のワン・シーンを思い出せば殺風景な風景が絵になってくる。国木田独歩の「武蔵野」の舞台はなんと渋谷のNHKがある辺り、明治の中頃はまだ雑木林が残っていたそうだ。

散歩は事前に地図で調べて、歴史や情報を仕入れて歩こう、楽しさは倍増すること間違いないと散歩の極意を伝授して頂いた。

最後に質問タイムに移り①林芙美子の一人酒場の背景、②西行・芭蕉の歌枕を訪ねる旅についての解説があつて休憩なしの2時間が終わった。

川本三郎さんプロフィール

1944 東京生まれ。朝日新聞社勤務後独立し評論活動。永井荷風、林芙美子、北原白秋の研究で知られる。著書に、
 「大正幻影」サントリー学芸賞
 「荷風と東京『断腸亭日乗』私註」読売文芸賞、
 「林芙美子の昭和」毎日出版文化賞、桑原武夫学芸賞
 「マイ・バック・ページある60年代の物語」河出書房新社、1988
 「銀幕の銀座 懐かしの風景とスターたち」中公新書、2011
 「小説を、映画を、鉄道が走る」集英社、2011
 交通図書賞
 「君のいない食卓」新潮社、2011
 「白秋望景」新書館、2012 他多数

文学散歩「実篤記念館と公園」

6月に行われた会員のための文学散歩に感想をいただきましたのでご紹介します。

.....

友の会（視覚障害）の山本菊雄です。

6月24日文学散歩に参加しとっても良かったです。11名で武者小路実篤記念館、専任ガイドさんの説明にうなずきながら聞きほれて文学の原点を知ることが少しですが認識できたような感じがします。

展示物はガイドさんのきめ細やかな説明で想像の域でしか解りませんが、盲学校時代の国文学史を思い出し懐かしく若返りした思いでした。

休憩室でお茶を頂いたあと、庭園に向かい静寂と蒼い緑に覆われ別世界に引き込まれる思いでした。あじさいが青白く、大輪は手のひらにみずみずしく優しく、花菖蒲が緑にさえ、もうそう竹が天高くそびえ立ち、「ひかり藻」が幻想的に輝いているよ、と教えてもらいました。話によると周囲が自然でなければ育たないとのことでした。「ひかり藻」は幻の苔だとのこと。

土の細道を進み、実篤が暮らした家がひっそりとたたずむ。昭和初期の庶民の住まいで、以前はよく見かけたものでした。畳 縁側 中敷には襖 ガラス障子 座卓の上には筆 硯箱 付けペンなど、当時を思い出しました。

皆さんで写真におさまり残影を思いつつこの場を出る。佳き昔を心行くまで堪能してきました。

.....

水と花と「ひかり藻」と…

川上文子

6月24日、好天に恵まれ総勢11人で実篤記念館に行ってきました。杖をつかれた方も参加、うれしい企画でした。

国分寺駅からバスで府中へ、そこから京王線つつじヶ丘下車。実篤が描いたカボチャの絵の標

識をたよりに難なく実篤館に着きました。記念館は大きな丸みを帯びた三角屋根で覆われた建物でした。中は広々として彼の人となりがよくわかる展示がされていました。学芸員の話では、常設はなく、毎月展示物をかえるとのことでした。

目を引いたのはたくさんの葉書でした。志賀直哉、岸田劉生、長与善郎たちが如何に実篤を心の支え、柱としているのがわかりました。

隣接の実篤公園は水を好んだ実篤の理想郷。大きな池には木道が回廊となり、竹林、楓、いろいろな花木があり、今は菖蒲が満開でした。岩かげの小さな溜りに「ひかり藻」を見ることができ感動しました。まるで別世界に入り込んだようでした。



実篤邸前で参加者の記念写真

秋から初冬へ… あなたも出かけてみませんか？ 武者小路実篤記念館と実篤公園

京王線 仙川駅またはつつじヶ丘駅徒歩 10分

開館時間 記念館 10時～16時

公園 9時～17時

入場料 大人 200円 小中学生 100円

休館日 毎週月曜日 年末年始

所在地 調布市若葉町 1-8-30

問い合わせ ☎03-3326-0648

*実篤が晩年の20年を過ごした公園内の旧実篤邸は土、日、祝日に内部が公開されます。(ただし雨天中止)

学習会の活動から



障がい者サービス学習会

名取 公子

3月の「障がい者サービス交流会」で話し合われた中から、その後の進捗状況について、図書館に伺いました。

① 「ハンディキャップサービスごあんない」をホームページに掲載しましたが、反応はいかがですか。

A 直接お声はいただいておりませんが、障がい者自立支援センターの担当者より広報紙「ひびき」への掲載の依頼を受け、「録音図書貸出サービス」の記事を掲載し、障がい者サービスのPRを行いました。今後も、図書館ホームページのハンディキャップサービスのページをさらに充実させていきたいと考えております。

② 現在利用されているカセットテープの録音から、今後はデジター（機能がよく聞きやすい機器）に切り替えていくのでしょうか。

A デジター図書への切り替えも大切ですが、現在小平市立図書館で録音図書を借りられる方の中にはカセットテープでしか聞くことのできない方もいらっしゃいます。まずはカセットテープから音声CDへの移行をすすめ、段階を踏みながらデジター図書を小平市立図書館でも作成したいと考えております。

③ 点字図書は696タイトルあるそうですが、目録がないので探せない。点字図書目録を作ってほしい。という要望がありましたが作成されたのでしょうか。

A 点字図書の所蔵調査を改めて行い、目録の作成に向けて準備を進めております。作成後点字が読める利用者の方々への配布を検討しております。

④ 朗読の経験者を対象とした「対面朗読ボランティア講習会」を行ったそうですが、今後の進め方として、募集、組織作りなど何時ごろからスタートするのでしょうか。24年度も半期が終わりました早急に始動してください。

A 6月に講師として墨田区立あずま図書館障がい者サービス担当の山内薫さんをお招きして、障がい者サービス講習会「学ぼう障がい者サービスとは？」を全2回開催しました。1回目は、図書館の障がい者サービス全般について2回目は、視覚障がい者サービスとして行われている対面朗読・音訳サービスについて、墨田区立あずま図書館での活動事例や、障がい者サービス用資料を紹介しながら講演していただきました。

11月21日より音訳や対面朗読の経験のある方を対象に音訳ボランティアの募集を行います。図書館に登録していただくことで、対面朗読を希望される利用者の要望に迅速に対応できるようにしていく予定です。

⑤ その他、3月以降、進展がありましたらお知らせください。

A 4月に身体障がい者1、2級の方に対し、デジター図書・デジター再生機の貸出を実施しました。8月には、視覚障がい者だけでなく、高齢者や寝たきりの方、ディスレクシア（読み書き等の言語に困難を伴う）の方などにも利用対象を拡大して、録音図書・デジター再生機を図書館窓口で貸し出す「録音図書貸出サービス」を開始しました。また、録音図書を利用される方が検索しやすくなることを目指し、録音図書目録のホームページ掲載や、目録の点訳・音訳版を作成しました。目録を希望する方に対し配布する予定です。

図書館からは以上の回答をいただきました。今年に入って職員の「障がい者サービス講習会」受講、読書機器の充実、図書館独自のボランティア募集等、大きな進展がありました。今後に期待したいと思います。

YAを楽しむ会

重村 ヒロミ

「^{だれ}大人が読んでも面白いYAの本」を無事発行することが出来ました。32 ページで、紹介した本は37冊です。一冊の本を100～150字で紹介することはなかなか大変なことです。特に深く感動したものは100字くらいでは収まりません。そこで途中から「字数制限を厳しく言わない」ということになり、長いのと短いのができました。

出来上がった「冊子」をそれぞれの友人たちにもあげました。「いっぱい読んでいるんだねえ」「知らない本を紹介してくれてありがとう」「紹介文を読むと興味が湧いてきた」とおおむね好評でした。私の友人の一人は入院することになったとき、このリストの中の本を数冊図書館から借りて入院したそうです。子どもたちの成長物語だったので安心して読めるし、明るい気持ちになって前向きになれた、と感謝されました。

5月から9月までに読んだ本

『マイ・アントニア』

ウィラ・キャザー著 みすず書房

『タチーはるかなるモンゴルをめざして』

ジェイムズ・オールドリッジ著 評論社

『彼女のために僕ができること』

クリス・クラッチャー著 あかね書房

『夏の庭』

湯本香樹実著 新潮社

『二年間の休暇』

ジュール・ヴェルヌ著 福武書店、他

『蠅の王』

ウィリアム・ゴールディング著 集英社

『偉大なるしゅららぼん』

万城目学著 集英社

『家なき鳥』

グロリア・ウィーラン著 白水社

* YA とはヤングアダルトブックスの略です。

図書館について学ぶ会

図書館見学・課題解決型サービス

加藤 裕史

今年5月に「あきる野市中央図書館・東部図書館エル」を見学しました。中央図書館は、平成19年8月1日に秋川駅近くに開館し、平日は夜8時まで開館していてとても便利できれいな図書館でした。また、書庫には自動書架・本・CD等はICチップが張られ最新技術が導入されていました。次に分館の東部図書館エルを見学してきました。こちらは、平成17年8月1日に住宅街に開館した小さな図書館ですが、北欧の図書館風に創られていてとても落ち着いた図書館でした。

課題解決型サービスについては、11月5日に花小金井図書館を見学して高野館長から色々とお話を聞くことが出来ました。「ビジネス支援コーナー」は、カウンターの前の小さいスペースで図書が303冊・雑誌が15冊ありました。駅から近いことからビジネスマンの方も多く利用されているとのことや、女性の利用者も多く『ママは働いたらもっとすごいぞ! (ダイヤモンド社, 2007年)』が多く借りられていることの話もありました。また、各関係部署からのパンフレットや新聞の折り込み求人広告も閲覧出来て、持ち帰ることも出来るようにしているとのことでした。今回の見学により小平市立図書館でのビジネス支援サービスが少し理解でき、今年度中に色々と考えて図書館に対して要望等も出していきたいと考えています。皆様も、ぜひ参加して図書館のことについて一緒に学んでいきませんか?

声に出して本を読む会

来年四月、新企画の発表会めざして

雑崎 亮平

私たちの活動も、2005年1月結成、(翌年に第1回発表会)以来、7年目の活動に入っています。初回からの参加者は、この歳月を経ても、指導者の熱情が、毎回、つぎの目標めざし「停滞」は許

されませんでしたから・・・。

克服しなければならない個人的課題とは別に、発表する場の課題もあります。

これまで、公民館などの公共施設を活用させていただく中で、作品により効果的なアピールの工夫を加える「演出」も考え、それなりに取り組んできました。

会場を変えて、その雰囲気を活かした、例えば、喫茶店、画廊での開催、他団体のイベントへの参加も、多くのご協力を得て、一定の成果をあげてきました。同時に、ご来場いただく方々の条件「足」の問題があります。立地が悪ければ、ご案内する場合の大きな制約になり、魅力ある発表で克服するしかないのかと、毎回悲壮？な決意です。

今年2月、小平市虹ヶ丘第一自治会「第2回・朗読と落語を聴こう会」で、5月は、小平市中央図書館・視聴覚室での発表会。9月には、小平視聴覚障がい者協会で、貴重な機会を得ましたが、これからも研鑽の実を挙げ、さらに来年4月6日、ルネこだいら「レセプションホール」での発表には、演出家、音楽家のご協力も得て、新しい企画に臨みます。小平図書館友の会は、結成15周年めざし、新体制を確立しました。私たちも心機一転、というところです。



図書館協議会報告

図書館協議会委員 伊藤 規子

平成24年度図書館協議会は、第2回が7月、第3回が9月に行われました。図書館の事業報告と研究課題として引き続き「電子図書と図書館のかかわり方」について話し合っています。今年度末には提言としてまとめられる予定です。

事業としては、仲町公民館・図書館の建設が大きな課題なのですが、少し進展が遅れているようで気がかりです。近隣の住民だけではなく、学校

図書館との連携の中心館となるということで、期待の大きな新図書館が早くできると良いと願っています。

現在、図書館協議会には公募委員が5名います。仕事や子育てを通じて経験を積んだ委員たちです。図書館からの報告が一段落すると、委員からの質問がたくさん出されます。私自身は、子ども文庫や図書館友の会を通じて30数年図書館と係わってきて、ごく当たり前のように感じていたことについても、新しい視点での質問が出てきます。「目からうろこ」の場合もあれば、「あれ？ 意外に知られていないんだな」と思うこともあって、なかなか刺激的です。

先日は、「大人のためのおはなし会」というネーミングについての質疑がありました。「大人のためのおはなし会というから参加してみたが、子ども向けの話ばかりだった」という質問です。「おとなのためのおはなし会」の趣旨は、ふだん大人が入れない「おはなし会」がどんなものなのか体験してもらおう、知ってもらおうということですが、でも、タイトルだけ見ると、たしかに「大人向きの物語の朗読」の会のように聞こえます。図書館の方が趣旨を説明して理解していただいたようですが、「なるほどなあ」と思ってしまった。今後も多方面の視点での質疑が行われることを期待しています。

Information

第15回チャリティ古本市予告

小平及び周辺のみなさまに大好評の恒例古本市が来年も開催されます。これから年末にかけて、あるいは年度末にかけて自宅の本の整理をしてみませんか？読み終わった本はぜひ古本市へご協力ください。そしてまた古本市で見つけた掘り出し物を隙間が空いた本棚へ。新しい楽しみがきっと増えます！

2013年3月30日(土) 31日(日)

小平市中央公民館ギャラリー

準備、集本期間 3月27日(水)～29日(金)